

国内実態調査報告書

テーマ :
ゼミ名 : 砂川 和範 ゼミ
調査日 : 2023年9月4日(月)～9月6日(水)
調査先 : 矢掛DMO、道の駅調査、矢掛屋(安達社長インタビュー)
授業科目名 : 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
参加学生数 : 11名(3年生)、8名(4年生)

調査の趣旨(目的)

岡山県矢掛町における観光地域づくり法人(DMO)をメインに、地域振興と観光開発マネジメントについての実態調査、経営者、行政へのインタビュー調査、ディスカッション、発表会の実施を目的とする。観光地域づくり法人(DMO)は、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人である。

調査結果

演習Ⅰの3年生、演習Ⅲの4年生の混成メンバーで以下の内容で実施した。

①岡山県矢掛町において就実大学経営学部八巻ゼミナールと合同で、地域フィールドワーク、矢掛DMO、株式会社矢掛屋社長、安達氏へのご講演、インタビュー、ディスカッションを行い、翌日、両大学のメンバー、教員も交え、発表会を実施した。

②調査インタビューの結果、ポイントとなったのは以下の4点である。

- (1) 観光地域づくり法人を中心として観光地域づくりを行うことについての多様な関係者の合意形成
- (2) 各種データ等の継続的な収集・分析、データに基づく明確なコンセプトに基づいた戦略(ブランディング)の策定、KPIの設定・PDCAサイクルの確立
- (3) 地域の魅力の向上に資する観光資源の磨き上げや域内交通を含む交通アクセスの整備、多言語表記等の受入環境の整備等の着地整備に関する地域の取組の推進
- (4) 関係者が実施する観光関連事業と戦略の整合性に関する調整・仕組みづくり、プロモーション

③矢掛町での調査ののち、ひきつづき二班に分かれて、地域振興と観光開発マネジメントの観点から、倉敷市にて倉敷アイビースクエア、大原美術館の見学、京都市にて西陣織会館、京都大学総合博物館、京都文化博物館、京都国立博物館の見学を行った。(その後、和歌山県に移動し、合同ゼミナール発表大会に参加)